

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.32

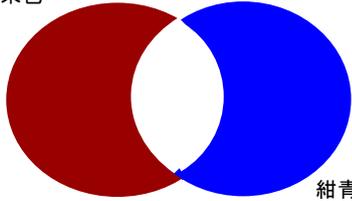
2006-2-18

일한 시민 네트워크 · 나고야

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

朱色



紺青

目次

1. 巻頭特別寄稿 _____ 尹大辰さん
2. 事務局通信 _____ 統括幹事：後藤和晃
3. ニュース _____ 事務局
4. 会の活動報告とお知らせ _____ 事務局
5. 会の行事参加者の声 _____ 参加者の皆さん
6. 会員の広場 _____ 会員の皆さん
7. ソウル便り _____ 二日市 壮さん

巻頭特別寄稿

◎ 新年のご挨拶 _____ 名古屋韓国学校 校長 尹大辰

新年おめでとうございます。今年が日韓市民ネットワークなごや及び会員皆様方にとって希望の年になりますようお願いしております。昨年は、日韓友情年の年にも拘わらず、領土・靖国・教科書・歴史認識問題等で外交的にはぎくしゃくしましたが、相互訪問者数は増加しており文化交流も増大してきており、むしろ市民交流の輪は拡大して来ているといえます。名古屋韓国学校といたしましても会員皆様方と共に日韓友情の輪をさらに深めて行きたく存じます。最後に、韓国の歌人・孫戸妍（ソン・ホヨン）さんの短歌を紹介して新年のご挨拶に代えさせていただきます。皆様方のご健勝とご幸運をお祈りいたします。



隣りいて 胸にも近き 国なれと 無窮花を愛（め）でて さくらも愛でて 孫戸妍

◇ 事務局通信 _____ 事務局 統括幹事：後藤和晃

新雪が祝った日韓交流 ～ 第8回 留学生を励ます交流の集い ～



韓国からの留学生を励まそうと交流の集いを開いた12月18日(日)は、「今日は大雪になるでしょう!」と朝から繰り返し報道されていた通り、夕方には激しく雪が降り始めました。雪は夜通し降り続けて名古屋周辺では30センチ前後の雪が積もる事態となり、朝刊には「名古屋で58年ぶりの大雪」との文字が踊ったほどでした。

こんな大雪の夜にもかかわらず交流の集いには留学生や会員、後援者の皆さんなどで71名もの方々が参加していました。岐阜県の恵那市からも会員の元教師、太田道子さんや岡崎洋子さんが大学生となった教え子連れ、2時間かけて駆けつけていました。

太田さんは「雪が心配で一時は欠席しようかとも思ったんです。でも、やはり留学生の顔が見たくて…」と笑っていましたが、頭が下がる思いがしました。

さて、この日の交流会も例年のように多くの方々の善意に支えられていました。まず寄付金について報告します。“今年も、なるべく多数の留学生を招待できるように!”との思いから、会員の皆さん方に協力を呼びかけたのですが、

会員でない方を含め、計49人の方から寄せられた寄付の総額は29万1000円に達しました。

善意のお金は実に私たちの会の一年間の会費に匹敵するほどとなったのです。その背景としては交流の集いの顧問である民団顧問の鄭煥麒さんや中日新聞相談役の横内恭さん、それに会場を提供された名古屋韓国学校等々から多額の寄付をしていただいたことがあります。

顧問の皆さんをはじめ寄付をされた方々から感謝を申し上げ、5ページにお名前を報告させていただきます。

一方、交流の集いでは今年も、またボランティア料理人が腕を奮いました。メインの寿司を握ったのはご存知の中川修介さんで、マグロの購入から解体、ニギリまで3日間をかけて、スシパーティを盛り上げました。おでんはこれまた和の調理師を自任する宮崎淳次郎さんが、精魂込めて美味しく煮込んでくれました。

さらに今年は新たに料理人としてトッポッキの竹中志保美さんが登場しました。彼女はこの夜ソウルのトッポッキ街で1年かけて本場の味を学んできた成果を存分に発揮しました。よほど美味しかったのか、トッポッキ鍋は、あっという間に空となり留学生や日本の若者たちからは「もっと食べたかったなあ!」との声がしきりでした。

様々な人たちの善意に包まれた交流の集いは、3時間にわたって和気あいあいと展開し、日韓人の友情を結びつけました。大雪の中、万難を排して参加された皆さんに今一度御礼を申し上げます。

3月26日(日)の総会に、ぜひお出かけください!

さて3月26日(日)は、一年前に決定していた第九回総会(於:名古屋韓国学校)の日です。例年のように一年の歩みを確認した上で、4月以後の行事を確定します。総会はこのように地味な内容ではありますが、実は総会の前後には思いがけない楽しみがありますので、ぜひお出かけください。

一つは、日頃支援いただいている民団顧問の鄭煥麒(チョンファンギ)さんが総会に合わせ、ソウルから超大物を呼んで、すばらしい講演会

が開けるようにされました。その方はかつて早大や米国の大学で学んだあと、東大や韓国の漢陽大で教鞭をとるかたわら、日韓の文化を比較する興味深い本を多数出版されている、金容雲(キム・ヨンウン)さんです。金さんは、韓国最大の民放でチャングムのドラマを制作したMBC(文化放送)の理事長(社長)も経験され、現在は韓日文化交流会議の委員長です。3月26日は、“日韓の愛を表す言葉”を比較しての楽しい話が聞けるはずです。(会場は民団会館の5階、講演は午後5時から、

韓日歴史・文化フォーラム主催です)

今一つの楽しみは、韓国の人間国宝というべき“らでん漆工芸家”で盛岡在住、会員の全龍福(チョンヨンボク)さんが、21日からこの26日まで栄三越の7階で“全龍福 うるし21世紀展”という壮大な展覧会(広さ100坪・作品80点)を開催されており、26日夜の懇親会に駆けつけていただけるとのことです。

の過ごし方はいかがでしょうか?

3月26日は、まず昼前後に全さんの豪壮な作品群(巨大パネルや家具も!)を鑑賞します。そして午後2時30分から総会、5時から講演会、7時から駅周辺で懇親会というわけです。

会員の皆様は、ぜひ日程を確保しておいてください

こ
んな
一日

日韓市民ネット総会

3月26日(日) 14:30から

会場は名古屋韓国学校

※地下鉄 桜通り線、亀島駅2番出口から北西に2分

総会の出欠を確認するハガキを同封しますので3月5日までに投函してください



このページは、新聞や雑誌あるいはホームページなど、当会に関係があるニュースを掲載しています。皆さんが、お気づきになったニュースがあればお知らせください。

◎ 会員がハングル教室を開設へ! ~ 豊山町・豊場新栄地区 ~

野球のイチローの故郷、豊山町で、私たちの会員が中心になって、韓国語の自主講座(豊山ハングル教室)を4月から開設することになり、会も組織をあげて応援することにしました。

豊山町は去年、韓国を理解するための講座を5ヶ月間、さらに韓国の初歩を学ぶ講座を3ヶ月間にわたって開催しました。計8ヶ月間に及んだ講座の内容や講師の決定には、日韓市民ネットワーク・なごやが全面的に協力したことは記憶に新しいところですが、うれしいことに受講生の中から会員になっていただいた人たちがいました。

今回、「豊山町でハングル教室を開こう!」と立ち上がったのは、会員となった市川延江さんや平松久仁子さんをはじめとする有志の人たちです。彼女たちは町と交渉し、無料で借りられる学習供用施設を1年通して借りるよう手配するなど着々と準備を進めています。

豊山ハングル教室・要項

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| (1) 開講日 | 月2回 第2・第4日曜日の10時から正午まで
※4月は9日と23日 |
| (2) 場所 | 豊山町・新栄学習等供用施設 |
| (3) 講師 | 李昇勳(イ・スンフン) |
| (4) 授業料 | 1ヶ月3,000円 |
| (5) 連絡役 | 市川延江さん TEL0568-28-0716 |

ハングルを教える講師は、私たちが推薦した留学生の李昇勳(イ・スンフン…元留学生会長、名大工学部)君に決まりました。李君はご存知の通り私たちの会員です。正確なソウルマルの

話し手である上、過去2年半にわたって日本人に初歩の韓国語を教えた実績もあり、講師にふさわしい実力があると判断しました。

会では4月から発足するこのハングル教室が長続きできるよう豊山町の教育委員会とも協力しながら見守って行きたいと考えています。

韓国語を初歩から習いたいと思っている人で、豊山町のこの教室（名古屋空港や豊山町役場に

近い所）に通える人は、4月からの開講にぜひ参加してください。教室は下記の要領で実施するので受講を希望する方は連絡役の市川さんまで申し込んでください。

◎ 阿部釜山総領事、瀋陽へ

2002年から今日まで在釜山日本国総領事として、サッカーのワールドカップの共同開催をはじめ日韓人の交流に心を砕いてこられた阿部孝哉さんが、中国東北部にある瀋陽の総領事に転出されることになりました。阿部総領事は大邱で故水崎林太郎翁（戦前、大邱に農業用の貯水池を造成し、大邱農民の恩人といわれた岐阜出身の人物）の墓を守っている徐彰教（ソ・チャンギョ）さんと親交があり、水崎翁の追慕祭にも参加された方です。

阿部さんは漢詩を詠む文人外交官としても著名な人で、このほど送られてきた転勤の挨拶状には、我心之釜山（我が心の釜山）と題する漢詩が添えられていましたので、紹介しましょう。

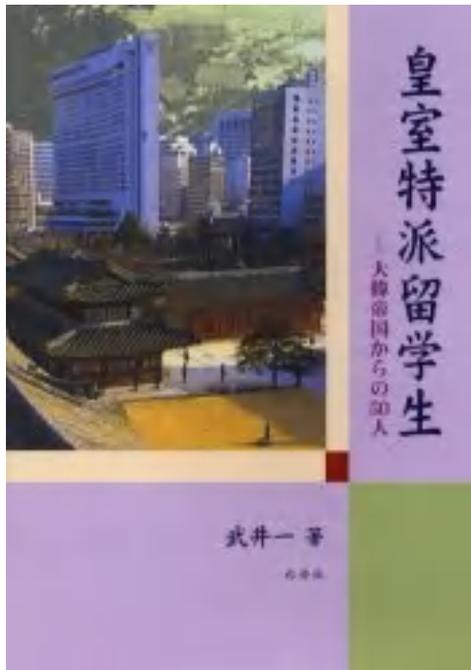
波路はるかに对馬かすむ
釜山港 行き交う船しげく
黄昏の玄海灘に秋風わたり
霧笛 蕭々 洗 旆 愁
旆にしあれば霧笛うら悲し
哉雲

波路はるかに对馬かすむ
釜山港 行き交う船しげく
黄昏の玄海灘に秋風わたり

霧	黄	釜	波	
笛	昏	山	路	我
蕭	玄	港	迢	心
々	海	躡	々	之
洗	西	去	对	釜
旆	風	来	馬	山
愁	度	舟	幽	

阿部さんは引き続き、朝鮮半島とは深い関係のある中国東北部（朝鮮語を話す朝鮮族が200万人住んでいます）の中心都市瀋陽で、活躍されることとなります。私たちも古代の高句麗や渤海の故地であるこの地方に旅行する予定もあり、今後とも連絡を取りあって行きたいと考えています。

◎ 武井一さんの最新著書 ” 皇室特派留学生 ” 出版



あけましておめでとうございます。この冬は寒く、すでに漢江はうっすら氷がはり、白馬江も氷の固まりが浮いている状態でした。新年は大阪へ行き、帰りに関西本線、名古屋泊、中央本線経由で東京まで戻りました(さすが疲れしました)。

ところで、新しい本をだしました。「皇室特派留学生- 大韓帝国からの50人」という本です。ちょうど100年前、大韓帝国から日本へ50人の留学生が送られてきま

した。送られた先は東京府立第一中学校でした。そのなかには韓国では誰でも知っている歴史家・文学者の崔南善、上海臨時独立政府の外交部長だった趙素昂など、多くの有名人がいます。

日本に来たものの、文化理解の問題やそれぞれの社会のギャップにいたばさみになり留学生は悩みます。その最中に1905年第二次日韓協約が締結され、そのことをきっかけに同盟休校に進みます。

政府がやっている事業ですから、あっという間に外交問題になり、伊藤博文、桂小五郎、小村寿太郎、幣原坦(幣原喜重郎の兄)などが登場する事態になりました。その後一部の留学生は復学が認められるのですが、その間に様々なことを留学生も感じたようです。

その辺のことから、卒業後韓国で何をしたかまでを一冊にまとめました。

先日韓国の東亜日報で紹介されました。

(<http://japan.donga.com/srv/service.php3?biid=2005123044858>)

一度ご覧頂ければと思います。

白帝社の本で、2000円です。お近くの図書館や書店に注文していただければ幸いです。

参考 (<http://jns.ixla.jp/users/hajimet364/>)

◇ 会の活動報告とお知らせ

1. 報告

1) 交流の夕べ

事務局通信でもお伝えしておりますが、12月18日は見事な雪景色の中、交流の夕べが無事に行なわれました。子供たちが韓国語学校の広場で雪だるまを作ったり雪合戦をしていると思いきや、中には韓国人留学生や日本人の若者もいっしょになって雪で遊んでいました。雪を見ると雪合戦をしたくなるのは日本人も韓国人も同じですね。

さて、外は雪が積もっていて静ですが、2階

日韓市民ネットワークなごや事務局

の交流の夕べの会場では、熱気でムンムンでした。美味しい料理を食べながら滅多に顔を会わすことができない同士で近況報告や情報交換をしていたみたいです。今回は大きな出し物が無い分、個々の交流の時間がしっかり取れました。

最後はピアニストのイ・スンフン氏の伴奏で参加者全員がアリランを歌って2006年も日韓の友情は日韓市民ネットワーク・なごやから始まりました。

< 会計報告 >

収入	会費	173,000	支出	料理・飲物・器類	176,970
	寄付金	291,000		会場の飾付け	3,994
				アトラクション グッズ	525
	計	464,000		計	181,489
差引残高				¥282,511	

※差引残高につきまして、当会の活動資金として繰り入れ、今後の交流活動などに活用します。

< 寄付 > 敬称略

現金

池田 進	2,000	後藤 容子	500	夏目 玲子	3,000	顧問	
伊藤 みつ子	3,000	小西池 実	3,000	成瀬 一男	6,500	鄭煥麒	50,000
伊藤 義郎	3,000	堺澤 一生	3,000	沼野 健司	5,000	横内 恭	20,000
岩下 洋子	5,000	佐々木 英之	1,500	野村 哲	5,000		
鵜飼 満	5,000	鈴木 一字	3,000	早川 潤	1,500		
梅田 徹	1,500	鈴木 幸之助	6,500	平松 久仁子	3,500	※会員外	
太田 道子	6,500	須田 奈保美	6,500	牧野 司	5,000	伊藤 修造	5,000
大西 さおり	2,500	成 功	10,000	増田 一夫	5,000	朴美姫	5,000
岡崎 洋子	1,500	田口 良浩	5,000	松村 弘子	5,000	名古屋韓国学校	20,000
加藤 恵志	2,000	竹中 志保美	2,000	宮本 昌子	1,500		
加藤 勝	6,000	多田 敏雄	5,000	安田 守	3,000		
神谷 良子	1,500	土岐 良文	3,000	山田 あき子	2,500		
窪田 みどり	1,500	中川 修介	1,500	吉川 範和	2,000		
小坂井 多恵子	3,000	長澤 進	10,000				
後藤 和晃	5,000	長田 竹子	3,000	匿名希望	30,000		
人員数	(会員・顧問：44名 ※会員外3名) 合計47名					合計金額	¥291,000

差し入れ

石原 俊洋 (ワイン)、李 暁京 (韓国のみ)、太田 道子 (にごり酒)、岡崎 洋子 (日本酒2本)、後藤 和晃 (日本酒2本、ワイン1本、柚子茶2ビン、韓国のみ)、須田 奈保美 (留学生景品)、宮本 昌子 (くじ引き景品、おつまみ)

◎ “ 留学生を励ます会 ” に出席して

----- 韓国 淑明女子大学 (現在 名古屋金城学院大学 留学中) 李 先花

12月18日、日韓交流団体の皆さん準備して下さった交流の夕べの会に参加いたしました。会員の皆さんの心温まる美味しい食事を頂きながらいろいろな方々とお話をしました。

この留学中の日本の生活や文化的に感じたことや現在の韓国の事情に至るまで美味しい食事をしながら楽しい会話をしました。

一緒にアリランを歌ったり普段お会いすることのない人達と談笑しこの1年間の留学生活を振り返ってみました。

私は日韓交流団体の人達と一緒にこのような時間を過ごし、交流とは巨大なマスコミによる流行のように消費されるあり方でなく、人と人が顔を合わせ対話する中に本当の交流の姿があるのではないかと思います。

この会に来て知ったこの韓国留学生達と日本で生活している間お世話になった宮崎さん、加

藤さん、後藤さんをはじめ会員の皆様と会えてとても嬉しく思いました。

このような素晴らしい会を作ってくださった日韓市民ネットワークなごやの皆さんにもう一度感謝のことばをお伝えします。



◎ “ 留学生を励ます会 ” に出席して

こんにちは！2005年4月1日から名古屋の金城学院大学に交流留学生として勉強しているチェ ホランといいます。

日韓市民ネットワーク？ 日本に来る前から名古屋で留学していた先輩達から聞いて知っていました。

一緒に旅行をして日本のことをいろいろ教えて下さる人達だという話を何度か聞きました。

金城学院大学から日韓市民ネットワークなごやを紹介して貰い本当に沢山お世話になりました。

奈良・飛鳥など一緒に旅行しながら日本をもっと分かるようになりました。

日韓市民ネットワークなごやの皆様のおかげで約11ヵ月の間、日本にいて韓国と日本との親密感を感じることができました。

今回12月18日の交流の夕べの会に今までお世話になった人や初めてお目にかかる会員の皆様そして韓国の留学生達と美味しい食事と楽しい会話、雪が降る寒い夜でしたが本当に楽しい夜でした。

お互いが知っている韓国や日本のことを話し

----- 金城学院大学 留学生 チェ ホラン

合い韓国と日本は本当に近い国になったのだなと思うようになりました。

最後に韓国伝統のアリランを歌いながらとても心温まる夜でした。

日韓市民ネットワークなごやの皆様のおかげで日本での思い出がもっと一杯になりました。

カムサハムニダ。
忘れられない日本の留學生活になりました。
残り少ない留學生活ですが今後もよろしくお願い致します。

カムサハムニダ。



2.お知らせ

1) 光州へ学生交流団を派遣

この2月23日(水)から28日まで、これまで学生交流を繰り返してきた全羅南道の光州市に小規模の交流団を送ります。メンバーは大学生3人と事務局2人という構成で、光州でホームステイを行

うほか、ソウルでも学生交流を予定しています。

今年の学生交流団の派遣は資金的に難しい状態でしたが、年末に行った“交流の夕べ”への寄付が多く寄せられたため、小さい規模ながら実施が可能となりました。今回の交流団の旅行については、次の会報に詳しく報告します。

2) “金沢歴史紀行” 参加者の募集終了!

3月11日(土)から12日(日)にかけて行う“金沢歴史紀行”は、2月早々に20名に達したため募集を終了しました。旅行に使うマイクロバスは29人乗りですが、補助席を使わず、さらに後部の座席の一部を荷物置場にすると、20人程度の乗員が妥当と判断したからです。

参加を予定している皆さんに対しては、3月初めに出発の日時・場所などをハガキで再確認します。

3) 年会費納入のお願い

毎年2月から3月にかけて、会員の皆さんには年会費の振り込みをお願いしています。例年のように会費の振込用紙を同封しますので、郵便局より3月15日までに振り込んで頂くようお願いいたします。なお振替用紙を失くされた方は、下記の口座に振り込んでください。

口座名 日韓市民ネットワーク・なごや
口座番号 00830 4 36485



4) 新会員紹介

前回の会報編集以降に入会された方で、2月15日までに受付完了されている方々です。(敬称略)

豊原光四郎

회원 마당
会員の広場

ある偶然の重なりで、後藤さんとお近づきになり、この会を紹介していただき、何冊かの韓国に関する本をお借りした。その中の金達寿氏の「日本の中の朝鮮文化」を読んでいる時、齊藤忠先生のお名前をみつけ、心の底から懐かしさが込み上げてきた。先生が亡くなられた事は、何年前前訃報記事で知り、心から痛む思いをしたものであったが、今また、達寿氏の語り口の中に登場される先生のお仕事ぶりが、深い感慨を呼起したと言ったらよいだろうか。私の大学時代—随分古い事で、記憶は薄れると言うより消えてしまったと言った方が良いかも知れない。優しい話し方の中にも情熱のこもった真剣な授業を思い出す。

先生の話される考古学は、そこに生きた人々と文化を本当に愛しておられ、出土してくる一つ一つの物が想像をかきたてるのか！私はすっかり魅了されていった。考古学は如何に手間暇がかかるものであって、多くの研究者の存在が期待されるものであったか、その事も熱心に説かれていた。三年の後期卒論のテーマを決める時期、私は考古学に傾いてしまっていた。結局考古学はあきらめたのだが、又こうして先生の書かれた古代朝鮮の研究論文を読むと、魅力的であった講義が少しづつ甦る。心に残っている

※事務局注

齊藤 忠さんは、戦前、戦後を通して考古学会で活躍した人物。1932年(昭和7年)東京大学文学部を卒業後、朝鮮総督府の命を受け慶州博物館に赴任、古墳の研究に専念し、朝鮮考古学の第一人者となり、のち慶州博物館長も勤める。戦後は東大、大正大等で教授、文化財保護委員会主任調査官も担当した。

先日何気なくスイッチを入れた NHKTV で、「ワッソ」が取り上げられていました。

そこでふと思い出したのが、嘗て購入した事がある「はんがん」と言う雑誌の事でした。

古い話ですが、1988年4月、商用の為初めて足を踏み入れた韓国ソウル、そこで目的は商用でしたが、すっかり私を韓国ファンにしまい、今日に至っています。

何回目かの訪韓の際、金浦空港内の書店で手にしたのが、「はんがん」というソウルで出版された日本語版、A4サイズの総合雑誌で、政治経済から文化、巷間の噂話まで、幅広い編集内容

ものと言え、なんと言っても「広開土王の碑」である。鴨緑江中流域集安。今もそこにある六メートルの石碑を、私なりに長いこと心に温めている。寒いきびしい、茫々とした風景の中に、若くして戦に散った又の名を好太王と呼ばれた大王。

先生は「いつか見る事が出来るでしょう。」と仰しやった。それが今実現可能になったのかどうか分からないが…。せめて先生が第二の故郷と書いておられ、調査、発掘に携われた慶州城東洞遺跡や、第三の故郷扶余の羅城あたりを、秋のやはらかな残照が紅く映える頃、是非訪ねてみたい。

最後に先生の愛された九世紀新羅の学者、崔致遠の詩。

遠く流砂を涉りて 万里より来る
毛衣破れ尽して 塵埃を着く

西域の獅子舞が、新羅の都でねり歩く姿を想像しながら、先生の思い出の筆を置くことにする。

は、韓国に対して全く知識の無かった私には、絶好のガイドブックだったと言えるでしょう。そして訪韓の都度、書店を覗いては購入したものです。

その後、理由は判りませんが、書店から姿を消したので、淋しくはありましたが、購読を中止せざるを得ず、手元に前後12冊の雑誌が残りました。

最後に購入した1992年新春号に、冒頭で紹介した「大阪四天王寺・ワッソ」の記事があり、サブタイトルには「友情は1400年の彼方から」と書かれていました。

記事の中には、日本で最初の尼、「善信尼」に扮した女優の「東ちづる」さんが、にこやかに微笑んでいました。

私も在名時代に一度この「ワッソ」を体験しに行かなければと思いつつ、今日まで結局果たしていません。

それから14年後、TVで、昨年11月6日実施予定の「ワッソ」の準備状況が映し出され、後継者難に悩まされながら、和太鼓を打つ在日の青年達と、小太鼓で行進する「興国高校」の学生達を取り上げられていました。当日は運悪く降雨によって、祭り自体は中止されましたが、後輩達に継続を呼びかけるリーダーの姿をクローズアップしていました。

日韓交流に対する地道な努力の積み重ねの一端を知らずも見ただ事になります。

話題を「はながん」の記事に移しますと、興味一杯であった数々の話題の中で、特に私を楽しませてくれたのが、「タル・トンネ」という言葉です。「タル・トンネ」とは、文字通り「月の町人」という意味で、当時韓国では、低所得層

の人達が、町の小高い一角に住んでおり、最も月に近い町人という、韓国人特有の、中身はとても深刻な話なのに、ユーモアを以って表現した事に、すごく感心したからです。この言葉は残念ながら辞書には出て来ません。従って、この雑誌を手にしなかったら、私には永遠に知り得なかった単語と言う事が出来ます。

体験上でも、商用で訪れた工業地帯の多くは、この様な町が多かった事も事実でした。

雑誌「はながん」は恐らくその後廃刊になったと思いますが、最近後藤さんや、韓国観光公社名古屋の手を煩わせ、幸運にも一冊の文化雑誌に辿り着きました。

それが「アートン社」刊の「スッカラック」で、早速同社に創刊からの3冊を注文した所です。

勿論総合雑誌とは一味違った内容だとは思いますが、日本での編集と言う事ですから、韓国人の手になる「はながん」とは同類では無いでしょうが、私の韓国に対する蓄積を増加させてくれると思って期待している所です。

◎ 宮本昌子様の論文に寄せて

会員 長澤 進

このたび韓日協会の宮本様が母校慶応大学の文学部に論文を提出されました。偶々私はご提出される前に拝読する機会がありました。半年間論文の制作に専念されて長年の主婦の身でご苦労様でした。朝鮮半島植民地下での日本政府の教育の実態についての詳細な記述が的確明瞭に論述されています。実に多くの現実を網羅されていてそれは現実に韓国日本に在留する両国の関係者からインタビューの形式で採用されていますのでリアリティーが肌で実感できます。今回は被統治下のわが国の教育制度に的を絞っていますがあらゆる方面から追求された膨大な参考資料に目を通されています。

今を時めくベストセラー二世作家柳美里の小説、戦前大丘郊外の灌漑事業を生涯の仕事とした岐阜の偉人、その墓守の徐彰教氏、春怨秋傷を出版された瀬尾文子さんの詩調、NHKソウル支局に勤務されている二日市氏の政治論評、被統治民族の嘆き、ハンゲル発生の由来、御用歴史学者の広開土王の碑文の歪曲した解釈、枚挙に暇がなく興味が泉のように湧いてきます。皆小生の少しは体得していた積もりの話題です。

両親が戦前ソウルで生まれた関係で小学校の低学年まで中国韓国の大陸には馴染んでいましたがこの論文を拝読するにつけ過去の追憶におぼろげながら浸っています。

東海大学の助教授小倉紀蔵の韓国論は流石哲学者だけあり深遠ですが複雑で理解に苦しむこともあります。あらゆる韓国の文化の根底には恨みの感情があり長年儒教に影響された文明文化が伺えます。宮本様の在日在外韓国の方々の生の取材は論文にリアリスティックな興味を注いであきさせません。この短かな小冊子の中に過不足なく充実して論述された力作でした。今こそ韓日問題が世間を騒がせていることはありません。韓日関係が歴史的・政治的にぎくしゃくしている現在にあってはお互いの相好理解が如何に重要であるか如実に痛感いたします。恐らく大半の戦後の日本人にはある意味でも反省の念は微塵にも欠如していることは確かでしょう。時は今です是非この論文を公開され出版されることを念願して止みません。洛陽の紙価を高から占めること請け合いですよ。

◎ 名古屋からドイツへ

会員：大西 さおり

サッカーJリーグの名古屋グランパスエイトに韓国代表・金正友 選手が入団

お待たせしました。いよいよ名古屋にも韓国人Jリーガーの登場です。

金正友選手は守備的なミッドフィルダー（MF）。本人曰く「フィジカルの強さには自信がある」とやや控えめな発言ですが、すでに「広い視野を持ち、パスの展開力が持ち味」と高い評価を受けています。若いとはいえ母国でのリーグ制覇など、経験豊富。また現役の韓国代表で今年6月のドイツW杯出場も期待され、こちらも楽しみです。

グランパスでは“ボランチ※”といわれるポジションでの起用が予想されています。チームの中心選手としての役割が求められるわけですが、これは適任のようです。身体を張った守備と多彩なパスで前線の選手を生かし、昨年まではややもすると単調になりがちだった攻撃にリズムを与えてくれることでしょう。

一本のパスが試合の流れを瞬時にして変えてしまう、それもサッカーの面白さの一つです。今から試合が楽しみな人も、サッカーはよく分からない…という人も、今年はずい一度スタジアムに足を運んでチームの舵を取る金正友選手の動きに注目してみてもいいのではないでしょうか？開幕は3月4日です。

※ボランチとは…一般に守備的MFのことを指す。ポルトガル語で「舵取り」の意。守備と攻撃の中継役であるが、攻守の切り替えの速い現代サッカーにおいては攻撃の起点として重要とされるポジションである。



プロフィール

金正友（キム・ジョンウ）
1982年5月9日生まれ 23歳 183cm 70kg
高麗大中退後、03年韓国プロサッカーKリーグ蔚山現代入団（昨年はリーグ優勝に貢献）
04年アテネ五輪代表（4試合出場1得点）
その後A代表に選ばれ、W杯最終予選にも出場
名古屋グランパスエイトでの背番号は「8」
1月の入団会見ではシャイで真面目な好青年ぶりをうかがわせたとか

FIFA 2006年ドイツワールドカップ

予選リーグ

F組	G組
日本	韓国
ブラジル	フランス
クロアチア	スイス
オーストラリア	トーゴ

予選試合日程

日本 対 オーストラリア 6月12日(月)	韓国 対 トーゴ 6月13日(火)
日本 対 クロアチア 6月18日(日)	韓国 対 フランス 6月18日(日)
日本 対 オーストラリア 6月22日(木)	韓国 対 スイス 6月23日(金)

今後とも期待しております。

○ 韓国国民をがっかりさせた黄禹錫事件

日韓友情年は無駄ではなかった

——— 韓国光明市在住 会員 二日市 壮

盧武鉉大統領は、1月18日、新年テレビ演説を行い、この中で「景気は徐々に回復してきているが、所得の両極化が目立ち、このままでは韓国は長期的に低い成長に陥る恐れがある。このためには雇用の創出が必要で、中小企業の活性化とともに、保育、看護、環境などのサービス産業で13万人の雇用を作り出したい。大企業は非正規の労働者を雇いたがり、労働組合は高い賃金を要求している」として国民に対話と譲歩を求めた。

実際に収入の高い階層は不動産を買って、値上がりすると転売し、その金で次の不動産に投資し、雪だるま的に太っていつている。韓国のゴルフ場に満足せず、飛行機に乗って日本のゴルフ場に行く韓国人富裕層の姿が目につく。一方では15階建てなどの普通のアパートを買わずに、互いに日光をさえぎる4、5階建ての連立住宅で割高な家賃を払わざるを得ない低所得者層がある。

さて去年2005年は日韓国交正常化40周年を記念する日韓友情年だった。竹島、歴史教科書、靖国によって、政治外交面ではこれまでにない対立の年だったが、民間交流の行事はほぼ予定どおりの700件もが行われた。宝塚も来た。9月、大学路での「おまつり」には、青森のねぶたなどを見ようと5万人が集まった。交流の成果は確実に実ってきていると思う。日韓を往来した人は450万人、羽田金浦線は好調。日本の歌手の公演を聴きに大勢の若者が集まり、明洞には日本映画専門館が誕生。日本からの機械輸入はさらに増え、トヨタの高級車レクサスはついに輸入車の1位となった。日本か

らの文房具、日用雑貨が街にあふれ、日本食の店が軒を連ねる。日本の小説も翻訳されて多数が読まれている。村上春樹、吉本ばなな、江国香織などだが...

日韓の間はこれまでになく近くなっている。しかし外交的対立だけは容易に解けそうにない。これは単に小泉政権の姿勢だけに原因があるのではない。根底は日韓の過去についての日本国民の認識不足にあると私は考える。



黄禹錫（ファン・ウソク）教授によるヒトクローンES細胞ねつ造事件は、まさに韓国的な事件だった。綿密さを避け、おおざっぱなことが好きな国民性、金大中前大統領の平和賞のほかにはノーベル賞受賞者がいないことから、難病治療に通じるこの研究にノーベル賞は必至と思い込んだ国民の大きな期待が英雄を作り上げ

た。しかし去年12月15日の共同研究者の産婦人科病院理事長によるES細胞の存在をほぼ否定する爆弾発言に端を発し、あっという間に偶像は破壊された。韓国の国際的信用を地に落とし科学立国の夢を壊したとして非難を一身に浴び、「最高科学者1号」の栄誉ははく奪、偽りの論文によって多額（600-700億ウォン

と推定)の国費をだましとったとして、詐欺の疑いで検察の捜査が進められている。

このES細胞疑惑に火をつけたのは、民放MBCが11月22日に放送した調査報道番組「PD手帳」だった。これに対して国民の間から「ノーベル賞がもらえなくなる」と猛反発が起き、スポンサー12社のうち11社が番組をおりた。MBCの経営陣も、取材の際、だましやどう喝があったとして謝罪。担当PDは番組をはずされた。世論は「黄教授を守れ」という一色となった。しかし結果的には、この報道は正しかったのだ。

一方、ニュース専門のケーブルテレビYTNは、黄禹錫教授が2001年に作ったというクローン牛が本物かどうか、調べるため資料の提供を受けて高麗大学法医学研究所に分析を依頼した結果、「一致しない」という結果が出ていたのにこれを報道しなかったと、今年になってから謝罪した。この社の取材チームはアメリカの共同研究者への取材に行った際、黄禹錫チームに費用の一部を払ってもらったうえ、1万ドルの持ち込みにも協力していたことが伝えられている。

こうした中でKBSは、黄禹錫教授の研究全部がうそではないという路線を取っている。実際にクローン犬のスナッピーは本物だし(ソウ

ル大調査委)、ヒトクローンES細胞はある段階まではできていたという説もある。検察その他の調査によって、いずれ正確な全ぼうは明らかになるだろう。

ところで、韓国の酒席に欠かせない爆弾酒にも、黄禹錫酒というのが登場した。ビールを入れたジョッキーの中にウイスキーを入れた小さなグラスを沈めるのが原爆酒、その反対が水爆酒なのに対して、これはジョッキーに同じビールの小グラスを沈める。いや小グラスには水を入れるのだという人もいる。韓国人のやけになった感情を表している。



日本の韓流ブームは一時的でなく長続きしている。それで今後、日本に輸入されそうな韓国の映画、TVドラマをご紹介したい。いずれも韓国語題名の直訳なので、日本では題名が変わるかも知れない。

まずは「王の男」。観客数1000万人を超え、盧武鉉大統領も先日、大統領就任以後初めて映画館まで足を運んだ映画。朝鮮王朝第10代王、燕山君とおかかえ芸人、側室とのおかしくも緊張感のある物語。

▽次が「ウエルカム・トゥ・ドンマッコル」。朝鮮戦争が始まっていることをまだ知らない村での南北、アメリカの兵士が繰り出す笑いと感じのメルヘン。去年、800万人が見た。

▽「君は僕の運命」は去年秋公開の純愛映画。感動、請け合い。

▽南北スパイを描いたチャン・ドンゴン主演の「台風」。

「4月の雪」の女主人公、ソン・イェジン主演の「ナンパの定石」。

そしてMBCのテレビドラマ「私の名前はキム・サムスン」は、去年、視聴率トップのコメディ。金ソナ(本当に日本語ペラペラ)が30過ぎのもてない女性を演じ、現代の王子さまのようなお金持ちの男性と出会ってやがて結ばれ

るストーリー。

KBSが去年、放送した同じく視聴率トップの時代劇「海神」は、新羅時代、韓国南海岸を基地に東シナ海を支配した英雄チャン・ボゴの生涯を描いている。

最近では、制作費をかけ有名俳優を起用したものより、初めは注目もされなかったものが次第に観客を集め記録を作る傾向になっている。もちろん、そこにはヒットする要素があるのだろうが、「みんなが見に行くから私も行く」という大衆社会的同化心理も働いているように思われる。





◇お知らせ・紹介

この欄は、会員の皆さんへ各種ニュースや1～3ヵ月先のイベントのお知らせや、その他もろもろの紹介をしていきます。会員の皆さんからの情報も待っています。

「第8回 韓国語弁論大会」

日時：3月12日（日） 午後1時30分～（予定）

会場：愛知韓国人会館 5層ホール

主題：韓国、日本に関する内容

問合せ：名古屋韓国学校 052-452-0321
kangaku@topaz.ocn.ne.jp

～志多ら・ノリパン 鼓動の響演～

「とどけ！いのちの響き」

日時：2006年3月26日（日）

場所：扶桑文化会館（愛知県丹羽郡扶桑町）

開場：13：30 開演：14：00

入場料：2000円（全自由席）

☆ ワークショップ案内 ☆

～志多ら・ワークショップ～

「カラダいっぱい楽しんで、志多ら舞！」

日時：2006年3月18日（土）（13：00～15：00）

場所：扶桑文化会館（愛知県丹羽郡扶桑町）

定員：30名（定員になり次第、締め切らせていただきます）

受講料：500円

～ノリパン・ワークショップ～

「チャングとリズムと伝統を感じて！」

日時：2006年3月12日（日）（13：00～15：30）

：2006年3月19日（日）（13：00～15：30）

：2006年3月26日（日）（リハーサル～本番）

場所：扶桑文化会館（愛知県丹羽郡扶桑町）

定員：20名（定員になり次第、締め切らせていただきます）

※全3回参加できる方に限る

受講料：500円

チケットのお求め・お問い合わせは扶桑文化会館まで

0587-93-9000

<http://www.md.ccnw.ne.jp/fusobunka>

漆・螺鈿(らでん)工芸家

全 龍 福 う る し 21 世 紀 展

3月21日(火)～26日(日)

栄三越 7階



全龍福（チョン・ヨンボク）さんは韓国を代表する漆・らでん工芸家。

金大中大統領から「韓国を代表する知性の人」と称えられた。英語、日本語を駆使してアジア各地で活躍、韓日歴史・文化フォーラムでも去年の7月に講演。今回は栄三越 7F の広さ100坪の催事場に巨大なパネルや家具など80点の工芸美の結晶を展示する。ぜひお出かけください！

全龍福氏プロフィール

1952年	朝鮮戦争の最中、釜山で生まれる	2000年	大韓民国新知識人大統領勲章受賞
1980年	芸鱗漆研究所設立(釜山)	2001年	勲章受賞記念個人展
1985年	「世人工房」招待展(釜山)	2002年	いわて・韓国友好フェア
1986年	現代美術大賞展大賞受賞(ソウル)		
1987年	東京目黒雅叙園の漆工芸品約5千点を 3年間にわたり復元修理、制作	現 在	目黒雅叙園漆研究所長、 全龍福漆芸研究所長岩手県盛岡市在住 韓国日本、ニュージーランドで指導
1992年	目黒雅叙園美術館招待展(東京)		
1997年	芸術の殿堂 KBS 招待展(ソウル)	著 書	「魂 パパ、なぜ日本にいるの?」
1999年	釜日ギャラリー個人展(ソウル)		

編集後記

(2006/2/15)

会報 No. 32 をお届けします。年末が異常に寒かったせいか、今年に入ってから思った程、寒さを感じませんが、皆さん、お元気でしょうか？毎年この時期になるとインフルエンザが心配されますね。さて、今はテレビをつけるとオリンピック一色ですね。日本人選手が多く出場しており、ついつい応援しながら寝不足の方も多いのではないのでしょうか？オリンピックが終わればサッカーのワールドカップもあります。今大会も日本・韓国共に予選を突破できると良いですね。

池貴己子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1996 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 〒472-0002 知立市来迎寺町木ノ根田 10-4
TEL/FAX 0566-82-5466 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp